

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を継続して行い、授業評価の結果を参考にしながら、教員相互の授業見学を実施することで授業改善につなげる。②Chromebook等のICT機器を活用した対話的な学びについての研究・実践を行う。	①「共通授業コンセプト」に沿った授業評価を行い、授業評価の結果を参考にしながら、教員相互の授業見学を実施することで授業改善につなげることができた。②各教科で、ICT機器を活用した研究的な実践をしているが、それをあまり共有することができなかった。	B
児童生徒指導	①教職員が「児童生徒指導のスタンダード」を確認する機会を増やし、基本理念を浸透させる。②行事や特別活動、授業などあらゆる場面で、「生徒一人ひとりの居場所・役割」と「仲間から認められる機会」をつくり、自己有用感を高めながら、親和的な集団づくりを進める。	①児童生徒指導のスタンダードは、4月当初の職員研修で確認をしたのみである。確認の機会を増やすことが目的ではないが、基本理念を理解している上で生徒指導にあたることは大切である。②様々な場面で自己有用感や親和的な集団づくりを進めることを目的に活動に取り組んでいる。	B
健康教育・健康管理	①「体と心の健康カード」と「保健委員会からの情報発信」を柱に、生徒が健康で安全な生活を実感できるように取り組む。②年2回の体力テストを通して、生徒に自身の体力についての課題意識をもたせ、課題解決に向けた体力づくりを行えるように指導する。	①毎月、月末にカードの振り返りを実施したことや、保健委員会の健康安全に関する活動を通し、健康で安全な生活を実感できる取組を行った。②年2回の体力テストが実施できた。生徒に1回目の体力テストで課題意識をもたせて取り組めた。課題解決に取り組む時間を確保したい。	A
地域学校協働活動(地域・防災科)	①地域との連携・協働を意識しながら、令和3年度に作成した指導計画に沿って、地域・防災科の教育課程を確実に実施する。②学校・地域コーディネーター配置に向けて、地域連携に関する業務について役割分担の整理を行う。	①地域と連携・協働を実践し、令和3年度に作成した指導計画を一部改良し、横浜市危機管理室監修「はまっ子防災ガイド」を取り入れ、地域・防災科の教育課程を確実に実施した。②学校・地域コーディネーター配置に伴い地域連携の分掌担当として改めて地域連携部門を組織した。	A
いじめへの対応	①生徒指導における一つ一つの課題について、教職員間で情報共有を行い、対応の手順を確認しながら、見直しをもった指導を行う。②日頃から、生徒の様子や指導・支援の具体的な内容について、保護者と情報共有を行い、いじめの未然防止・再発防止に努める。	①生徒指導の課題については、各学年、教職員間で情報共有を行い、対応を確認しながら取り組んだ。学年の動きを全体周知させることには、少し時間がかかる。②面談や懇談会、電話連絡などを通じて保護者との情報共有はできている。懇談会は、保護者との良い顔合わせの機会となった。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①経験の浅い教職員がより主体的に実践力を高められるようにメンターチーム研修を計画する。②主幹・主任会を中心に、ミドルリーダーが学校経営理念の理解を深めながら、学校運営に意見具申できるように取り組む。③部活動なしの18時退勤デーを月1回設定するなど、「教職員の働き方改革プラン」を具体化した実践を行う。	①経験の浅い教職員の声を聞きながら研修内容を考え、年に3回の研修を実施した。②コロナ禍の対応や行事等の変更について話し合いを行う中で意見具申を行うことができた。③毎月の事務処理日の設定等で、働き方や退勤時間について意識し、退勤時間を早くすることができた。	B
特別支援教育	①個に応じた支援の必要な生徒について、短期目標と長期目標を明確にし、教職員で共有しながら継続的な支援を行う。②特別支援教室を利用する生徒が安心して学校に通えるように、仕組みやルールについて、教職員の共通理解を徹底する。	①目標設定は行っているが、教職員での共有をする機会をもつことができなかった。②特別支援教室の仕組みやルールについては、子ども達の状況を考えて進めた。支援者との関係作りや子ども居場所作りを考えると臨機に対応したこともあり、共通理解の徹底はできなかった。	B
特別活動	①「社会参画」の視点に重点を置き、生徒会本部や評議会の情報発信を工夫することで、生徒が学校全体のために主体的に課題解決を図ろうとする態度を育む。②学校教育目標と生徒会活動のつながりを示した構造図の活用場面を増やし、行事の「ねらい」をより共有化できるようにする。	①全校レクの企画をより生徒参加型のものへ工夫したり、全校評議会の内容を評議員からクラスに伝えたりすることで、全校生徒が生徒会活動に参画するきっかけづくりができた。②構造図を学級目標の制作時や生徒総会で提示し、学校教育目標と生徒会活動のつながりを示すことができた。	B
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①授業評価・授業見学をもとに、教科会を開き、改善につなげる。授業見学の期間を2週間にする。②ICT機器を活用した対話的な学びについての研究・実践を次年度も継続する。普段の授業を一年に一回は教職員研修用クラスルームに投稿するよう声掛けをする。		
児童生徒指導	①教職員が「児童生徒指導のスタンダード」を確認できる機会を設定し、基本理念を念頭に置きながら生徒指導にあたる。②行事の振り返り、横浜プログラムの結果から「生徒一人ひとりの居場所・役割」と「仲間から認められる機会」をつくることができているかを確認しつつ、親和的な集団づくりを進める。		
健康教育・健康管理	①月ごとの体と心の健康カードや保健委員会からの情報発信を通して、基本的な生活習慣の定着を図り、生徒が健康で安全な生活を実感できるように主体的な活動を取り入れる。②体力テストの結果から、自己の体力について振り返り、課題意識をもたせ、課題解決に向けた取組を各単元の特性に応じて行えるよう指導する。		
地域学校協働活動(地域・防災科)	①9年間を見通した「地域・防災科」の教育課程を見直し、発達段階に合わせて「はまっ子防災ガイド」および「防災アニメ」を教材として取り入れた指導計画を立案する。②「地域・防災科」の活動を通して、自分たちの活動が地域や社会からどのように捉えられているかを客観的にとらえる機会を意図的につくる。		
いじめへの対応	①生徒指導について、学年を中心に教職員間で情報共有を図り、対応の確認をして指導にあたる。また、全体への情報共有を円滑に行う。②生徒の様子や指導・支援の具体的な内容について、懇談会や保護者面談の機会を設定して情報交換を円滑に行い、いじめの未然防止・再発防止に努める。		
人材育成・組織運営(働き方)	①経験の浅い教職員が実践力を高められるようなメンターチーム研修を実施する。②主幹・主任会を定期的に設定し、ミドルリーダーが学校経営理念の理解を深めながら、学校運営に意見具申しやすい環境を整える。③働き方に関するこれまでの取組を整理し、「教職員の働き方改革プラン」を具体化した実践を継続的に行う。		
特別支援教育	①個に応じた支援の必要な生徒について、学校全体で短期目標と長期目標を確認し、教職員で共有しながら継続的な支援を行う。②不登校支援が必要な生徒、学習支援が必要な生徒など、特別支援教室を利用する生徒が安心して活動できるよう、仕組みやルールを教職員と確認しながら支援や環境づくりを行う。		
特別活動	①全校評議会の報告を生徒が主体的に考えられるものに変更し、LCBや目安箱を活用することで、全校生徒が生徒会活動に主体的に参画できる環境を整備する。②学年ごとに行っている行動指標やレクリエーションを他学年と連動して実施することで、学年や他学年との関わりを深め、学校全体の連帯感を高める。		
b9			
b10			
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
児童生徒指導	c2		
健康教育・健康管理	c3		
地域学校協働活動(地域・防災科)	c4		
いじめへの対応	c5		
人材育成・組織運営(働き方)	c6		
特別支援教育	c7		
特別活動	c8		
c9			
c10			
ブロック内評価後の気づき			
学校関係者評価			
中期取組目標振り返り			